

「単元テスト」による 指導と評価の一体化

この連載では、全国各地の中学校でお聞きした、補助教材を活用しながら、生徒のみなさんの学力向上に向けて工夫されている取り組みをご紹介します。

第8回目となる今回は、「単元プリント」を使用したり、問題データベースから問題を選択してWEB上でテスト問題が作成できる「テスト作成システム」を使った、単元テストで評価を行う取り組みをご紹介します。

事例

「単元プリント」や
「テスト作成システム」を活用し
単元テストでの評価に取り組む

高知県での「単元テスト」の取り組み事例

「単元プリント」や「テスト作成システム」を活用し単元テストでの評価に取り組む



高知県高知市立南海中学校

高知市の桂浜を望む、自然豊かな地域に位置する中学校です。1年から3年まで各学年2クラス、特別支援学級2クラスの計8クラス構成。生徒会活動や部活動、学校行事も盛んに行われています。2021年3月にはGIGAスクール対応のための工事が完了しました。

近くにある県立坂本龍馬記念館では、坂本龍馬の残した歴史が学べます。学校のキャラクターは、海と龍馬をイメージした「海龍くん」です。



石本先生(英語)、大石教頭先生、原田先生(理科)、関川先生(数学)、傍土先生(英語)、白井先生(国語)(左から)



背景とねらい

新学習指導要領では、評価について、単元のまとまりごとで行うことが示されています。しかし従来のような定期テストで評価しようとする、試験範囲が単元の途中になるなど、それに沿わない場合があることが課題でした。

そこで本校では、定期テストを廃止し、単元テストで評価を行う取り組みを始めました。この取り組みは、生徒をしっかり評価していくことをめざしたものです。

また、教師の「働き方改革」の進展もあり、単元テストの作成にあたっては、各出版社が発行している「単元プリント」や新学社の「テスト作成システム」*1)を使用することとしました。

▼取り組みの内容

1 単元テスト導入の目的

- 単元のまとまりごとに評価することで、その単元で生徒に身につけさせたい力が明確になる。
- 短い間隔でテストを実施するので、生徒の課題に早く気付くことができ、対応も容易になる。

2 実施方法

- 国語・社会・数学・理科・英語の5教科で、年間10回程度の単元テストを行う。実技教科は従来通りとする。
- 実施にあたっては時間割を調整して、同学年・同教科のテストを同じ時間帯にできるよう配慮する。

3 その他

- テスト週間は設けない。
- 通常の加力学習(補習)は行うが、テスト前は実施しない。

▼新学習指導要領解説(一部)

2 学習指導の充実

学習指導の充実にあたっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。

取り組みの詳細は

単元テストの概要は、次に示す通りです。

国語と社会は各出版社が発行している単元プリントを、数学・理科・英語は新学社の「テスト作成システム」を使用して単元ごとにテストを作成し、その結果を評価に使っています。このように、教科によって単元プリントとテスト作成システムを使い分けていることが特徴のひとつです。テスト作成システムは、教師が自分でデータベースから問題を選択できる点が便利です。

テストの実施後には「加力学習(補習)」を行い、できなかった生徒へのフォローを行っています。

評価にあたっては、教師が研究会で教科ごとに「単元指導計画表」を作成し、教師間で共有しています。これは、その単元を通して生徒にどん

*1) 大問ごとに収録した問題データベースから問題を選択し、WEB上でテスト問題が作成できる。

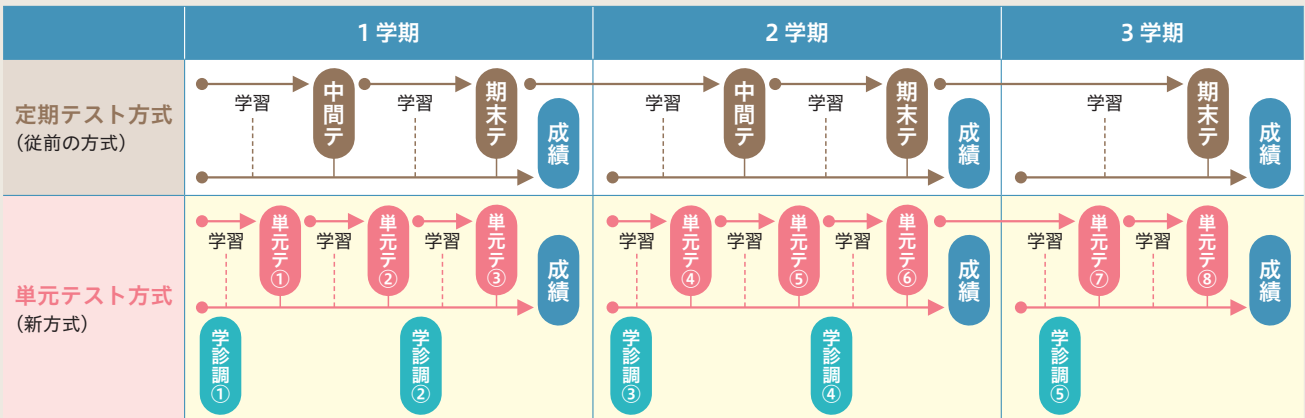
高知市立南海中学校 単元指導計画表					
教科名	理科	学年	3年		
実施予定期間	令和3年5月 日 ~ 令和 年 月 日				
単元名	酸、アルカリとイオン				
単元目標	① 酸性やアルカリ性を調べる実験をもとに、酸性、アルカリ性をそれぞれに共通する性質を見出すとともに、その性質が本素イオン、水酸化物イオンによることを理解する ② 酸性の水溶液にアルカリ性の水溶液を加えた時の変化について原子イオンのモデルを用いて説明することができる				
時数	学習内容	本時の目標	おおまかな流れ	評価基準	知 思 主
1	酸性とアルカリ性	酸性やアルカリ性を調べる実験を行い、酸性の水溶液とアルカリ性の水溶液をそれぞれに共通する性質に気づかせる。	① 小容量で学習したpHメーターの構造と変化を説明する ② 濃度の違いによる酸性やアルカリ性の強弱について、それぞれどの程度の濃度が必要かを説明する ③ 中和反応の生成物と反応熱について、それぞれ共通する性質を調べる	<評価基準> 実験結果をもとに、酸性、アルカリ性の性質について説明して、その共通点を見出すことができる。	○
2	酸性・アルカリ性とイオン	酸性・アルカリ性の強弱を調べる実験を行い、酸性の水溶液とアルカリ性の水溶液をそれぞれに共通する性質に気づかせる。	① 電気伝導の実験を行い、試験管の酸化還元反応の様子から、酸性の水溶液とアルカリ性の水溶液の電気伝導の様子を比較する ② 電気伝導の実験結果から、電気伝導の仕組みを説明する ③ 電気伝導の実験結果から、電気伝導の仕組みを説明する	<評価基準> 実験結果をもとに、酸性、アルカリ性の性質について説明して、その共通点を見出すことができる。	○
3	酸性・アルカリ性とイオン	酸性・アルカリ性の強弱を調べる実験を行い、酸性の水溶液とアルカリ性の水溶液をそれぞれに共通する性質に気づかせる。	① 本素イオンと水酸化物イオンの電気伝導を確認する ② それぞれのイオンが、電気伝導していること、電気を流すために必要な条件を説明する ③ 電気伝導の様子から、電気伝導の仕組みを説明する	<評価基準> 実験結果をもとに、酸性、アルカリ性の性質について説明して、その共通点を見出すことができる。	○
4	酸性・アルカリ性とイオン	酸性・アルカリ性の強弱を調べる実験を行い、酸性の水溶液とアルカリ性の水溶液をそれぞれに共通する性質に気づかせる。	① 電気伝導の実験を行い、試験管の酸化還元反応の様子から、酸性の水溶液とアルカリ性の水溶液の電気伝導の様子を比較する ② 電気伝導の実験結果から、電気伝導の仕組みを説明する ③ 電気伝導の実験結果から、電気伝導の仕組みを説明する	<評価基準> 実験結果をもとに、酸性、アルカリ性の性質について説明して、その共通点を見出すことができる。	○
5	酸性・アルカリ性とイオン	酸性・アルカリ性の強弱を調べる実験を行い、酸性の水溶液とアルカリ性の水溶液をそれぞれに共通する性質に気づかせる。	① 電気伝導の実験を行い、試験管の酸化還元反応の様子から、酸性の水溶液とアルカリ性の水溶液の電気伝導の様子を比較する ② 電気伝導の実験結果から、電気伝導の仕組みを説明する ③ 電気伝導の実験結果から、電気伝導の仕組みを説明する	<評価基準> 実験結果をもとに、酸性、アルカリ性の性質について説明して、その共通点を見出すことができる。	○

な力をつけてほしいかを設定し、そこから、授業時間・学習内容ごとにどんな力が身につけばよいか、どの場面でどんな評価をするかを定めたものです。これによって、担当が変わっても同じ指導・評価ができるようになっていきます。

一般的には教師は同学年のクラスの授業を担当します。しかし高知県では、1年から3年までの同じ1組をひとりの教科担当が指導する「縦割り方式*2)」を採用しています。したがって、教科担当が変わることで同じ学年間に指導に差が生じないように、しっかり目線を揃える必要があります。計画表にはこういった背景もあります。

縦割り指導のメリットとして、中学3年間の学びのつながりがイメージしやすく、学習全体を見通した指導が可能だということがあります。また、教科担当がそれぞれの学年の授業を協力して作っていく「チーム力」の向上にも一役買っています。

▼南海中学校の学習定着のしくみ



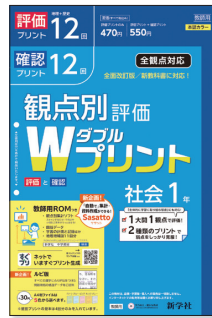
- 単元テスト方式のメリット**
- ① 単元ごとの学習の定着度を測るため、定期テスト方式に比べてスモールステップ（短い周期）で学習でき、集中してその単元の学習に取り組みやすい。
 - ② 各教科の単元テストがそれぞれ別の日に行われるため、定期テスト方式に比べて、その教科に絞った学習を行うことができる。
 - ③ 単元ごとにテストがあるため、各単元の「できる」「わかる」といった学習定着度を把握しやすい。

*2) 「教科担任タテ持制」ともいう。一人の教師が3学年をまたいで教科を担当する。3年間の見直しをもった指導が期待できるとともに、同じ教科の教員同士が授業内容や進度について情報交換をする必要性が生まれ、若手教員の授業の質の向上につながると思われる。

単元プリント

学習の達成

基本から応用まで取り組めるプリント教材です。オモテ面の基本問題で単元の基礎的な重要事項をものなくおさえ、ウラ面で資料を使った記述問題などに取り組みます。

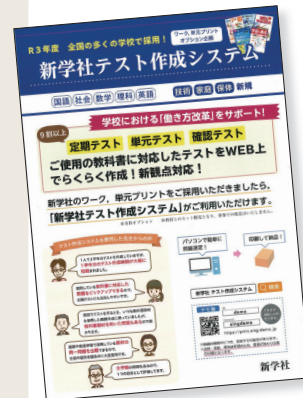


Wプリント

1大問1観点で構成。観点別の評価をはかる「評価プリント」と、その予習・復習として取り組める「確認プリント」のダブル使いができます。

※学習の達成もWプリントも、採点した問題用紙をスキャンしてソフトで読み込むと、自動で得点が集計されます。

テスト作成システム



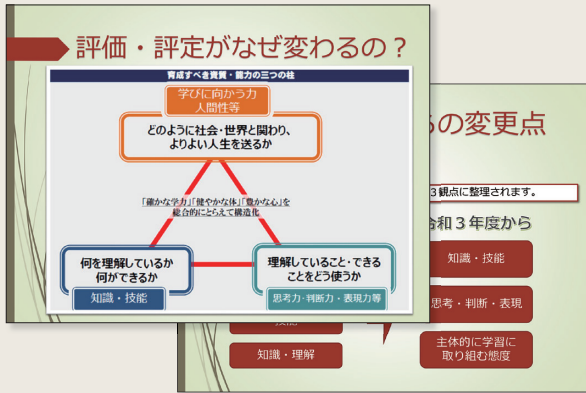
問題データベースから問題を選定し、WEB上でテスト問題が作成でき、生徒数分印刷したものが納品されるシステム。

<https://print.sing-demo.jp>

ID demo
Password singdemo



生徒・保護者へどう説明したか



生徒対象の全校集会の資料。学習指導要領改訂の背景を、社会状況の変化も含めて説明しました。

2020年度末には、定期テスト方式から単元テスト方式への移行に関する説明文書を保護者に配布しました。2021年度が始まるとすぐに、校長自ら資料を作成し、「新学習指導要領が変わることで評価そのものの考え方が変わる」という背景部分から、単元テストの目的や方法、注意事項等を丁寧に説明した文書を改めて保護者向けに配布しました。

生徒に対しても、定期テスト方式による評価方法から単元テスト方式の評価方法に移行することについて、全校生徒に対して集会（新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインで実施）で説明しました。

また、各単元の短い期間のまとめで本当に力がつくのか不安を感じる保護者もいると考え、単元テストのほかに「学力診断調査」（実力テスト）も

学校だより「南風」では、通知表の見方や評価基準の詳細についても詳しく解説し、保護者の疑問解消に努めました。

使うことにしました。前者で短期間の振り返り、後者では入学時からの長い期間の振り返りを行い、定着度を上げる体制をつくっています。

学習指導要領が変わるタイミングでの導入となったことで、比較的スムーズに受け入れていただくことができましたと感じています。

生徒・保護者の反応は

新しい制度に変わった当初、6月あたりまでは、これまでのやり方に馴れている2・3年生から「テストの回数が増えたので以前に戻して欲しい」という声が上がっていました。いっぽう1年生は、小学校の学習の流れに近いので、単元テストにすぐに馴染んでいきました。かわりに「テストのために勉強をしなくては」という意識は、上の学年に比べて薄かったかもしれません。

今は、定期テストのために部活を休みにするなどへの対応はせず、生徒は学習と部活を両立させながら学校生活を送っています。上級生にとって初めは戸惑いもあったでしょうが、現在はそれも受け入れて、日々たえず学習していく状況です。

以前のようにテスト範囲が広いと、学習に付いていくのが難しい生徒は意欲をなくしがちでした。しかし単元テストの導入でテストまでの期間が短くなったこともあり、生徒達は学習内容が理解しやすくと感じているようです。

途中で学習が途切れないことで、やる気が出てきた生徒もいます。今までほとんど勉強していなかった生徒が、学習の切れ目を単元にしたことでテスト勉強に取り組み始め、得点も上がりました。

